

科目名	微分積分学	英語科目名	Differential and Integral
開講年度・学期	平成28年度・通年	対象学科・専攻・学年	電気電子創造工学科2年L,R, 物質工学科2年
授業形態	講義	必修 or 選択	必修
単位数	4単位	単位種類	履修単位(30h)
担当教員	佐藤巖	居室(もしくは所属)	佐藤巖教員室(テクノ棟1階)
電話	内線176	E-mail	isato@小山高専ドメイン
授業の到達目標	授業到達目標との対応		
	小山高専の教育方針	学習・教育到達目標(JABEE)	JABEE基準
微分法、積分法の基礎的な概念と基本的な性質を、幾何・代数の両面を通して学ぶ。到達目標は以下の4点である。			
1. 基本的な数列・漸化式・数学的帰納法の概念を説明でき、具体的な計算ができること。	③		
2. 微分概念を理解し、計算ができること。	③		
3. 微分の応用として、関数の増減を調べられることを理解し、その計算ができること。	③		
4. 積分(不定積分・定積分)の概念を理解し、面積、曲線の長さ、体積等の計算ができること。	③		
各到達目標に対する達成度の具体的な評価方法			
中間試験、定期試験、課題によって評価する。			
評価方法			
中間試験・定期試験による点数を90%、課題を10%で評価する。			
授業内容			
I. 1週から7週 ()内の数字は教科書のページ			
1. 数列(新基礎数学 p.210~222) 数列/等差数列/等比数列/いろいろな数列の和/漸化式と数学的帰納法			
2. 関数の極限と導関数(新微積分I p.1~27)			
関数とその性質/関数の極限/微分係数/導関数/導関数の性質/三角関数の導関数/指数関数の導関数			
*前期中間試験			
II. 8週から14週			
3. いろいろな関数の導関数(新微積分I p.28~44)			
合成関数の導関数/対数関数の導関数/逆三角関数とその導関数/関数の連続			
4. 関数の変動(新微積分I p.45~60) 接線と法線/関数の増減/極大と極小/関数の最大・最小/不定形の極限			
5. いろいろな応用(1)(新微積分I p.61~65) 高次導関数/曲線の凹凸			
*前期定期試験			
III. 15週から21週			
6. いろいろな応用(2)(新微積分I p.66~77) 媒介変数表示と微分法/速度と加速度/平均値の定理			
7. 不定積分と定積分(新微積分I p.78~96)			
不定積分/定積分の定義/微積分法の基本定理/定積分の計算/いろいろな不定積分の公式			
8. 積分の計算(新微積分I p.97~114)			
置換積分法/部分積分法/置換積分法・部分積分法の応用/いろいろな関数の積分			
*後期中間試験			
IV. 22週から28週			
9. 面積・曲線の長さ・体積(新微積分I p.115~126) 図形的面積/曲線の長さ/立体の体積			
10. いろいろな応用(新微積分I p.127~144) 媒介変数表示による図形/極座標による図形/広義積分/変化率と積分			
*後期定期試験			
キーワード	数列、極限、微分係数、導関数、増減、極値、不定積分、定積分、面積、体積		
教科書	新井一道 他「新基礎数学」、「新微積分I」(大日本図書)		
参考書	新井一道 他「新基礎数学問題集」、「新微積分I問題集」(大日本図書)		
カリキュラム中の位置づけ			

前年度までの関連科目	基礎数学A、基礎数学B
現学年の関連科目	代数学・幾何学
次年度以降の関連科目	解析学、線形代数学
連絡事項	
<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業方法は講義を中心として適宜課題を与える。 2. 教科書を予習して授業に臨み、授業ではノートをしっかりとって、欠かさず復習をすること。教科書の練習問題や問題集・プリントの問題を自分で解くことも重要である。 3. 本校数学科教員全員が、数学全科目について質問を受け付ける。 	
シラバス作成年月 日	平成 28 年 2 月 20 日